



2012年に
開校140周年を迎えます。

立正大学FD (ファカルティ・ディベロップメント) だより



発行日
平成23年9月30日

URL
http://www.ris.ac.jp/

4.「私のFD活動」エッセイ ～研修会に参加して～

文学部社会科学 特任講師 武井順介

平成23年8月10・11日、「平成23年度FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)」(以下WSと略記)が開催され、参加する機会を得た。筆者は非常勤講師を合わせると7年目と教育歴が浅いため、毎年、手探りで授業を行ってきた。昨年度は、オープンキャンパスで撮影された模擬授業の映像で初めて自身の授業を客観的にみた。そのため授業方法の改善を考えていた矢先でのWSへの参加である。

WSは、初日に全体説明と昨年度WSに参加したパネラーによる参加後の改善報告、2日目には模擬授業とそのふりかえりというスケジュールで主に執り行われた。

初日のパネル・ディスカッションでは、3人のパネラーから改善報告として、講義であっても単に教壇の前で授業をするだけでなく、学生との双方向性を確保することによって学生の学習意欲が変化したとの報告がなされた。

2日目には、15分の模擬授業(前日に80分で授業計画を作成)を行ない、短いながらも実りのあるものであった。学生役は、様々な年代、研究分野に属する研究者である。そのため常に緊張感をもち、講義を行えた。また、学生役の研究者から「学生目線」での授業方法の改善点が出され、これは今後の授業展開に影響を与えるであろう。

2日間を通して、学生を授業に集中させ学習意欲を惹起させるための授業方法(授業の導入、板書、文字の大きさ、学生との双方向性、中間試験など)について、さまざまな課題が出された。これらは即座に解決・実行できるものではないが、ここで得られた経験は今後の授業展開に大いに役立つものであったといえよう。

地球環境科学部環境システム学科 助教 重田祥範

「大学教員の職能開発とFD」をテーマに、静岡県浜松市にてA日程(8月8日～9日)、B日程(8月10日～11日)あわせて41大学、計98名の教員が参加するFD研修会が開催され、私はA日程に参加した。

初日は昨年度の参加者をパネリストにお迎えし、FDへの取り組み例や具体的な問題意識が紹介され、各教員とパネリストとの意見交換をおこなった。2日目は各7名のグループに分かれ、文系・理系という分野の枠を超えた、さまざまなテーマの模擬授業がおこなわれた。私の所属するグループでは、授業を進めてゆく過程での導入方法や到達目標について活発な議論がなされた。その中で、多くの教員が学生に対して授業を如何に分かちやすく、さらには面白さを伝え、知的興奮・好奇心を引き出させるかは、専門分野に関係なく全ての分野に共通する目的であることを再認識した。この場で議論したことは、すぐにも自分の授業に取り入れたいことが多く大変有意義な研修会となった。

2日間という短い期間ではあったが、FD研修会の最大のメリットは他分野の方々と多く交流できたことである。最後になりましたが、FD研修会を勧めて下さった学部長をはじめとする

先生方に心より感謝申し上げるとともに、今後も多くの教員に参加して頂きたいイベントの一つである。



5. 平成23年度学外研修会・研究会報告

1 社団法人日本私立大学連盟主催

■平成23年度FD推進ワークショップ(専任教職員向け)
「私立大学の教育情報の公表と教職員の職能開発～FDとSDの見える化と教育の質向上～」

開催日:平成23年6月25日(土)

会場:TKP東京駅日本橋ビジネスセンター(東京都中央区)

参加者:伊澤高志(文学部特任講師)、小畑二郎(経済学部教授)、城冬彦(経営学部准教授)、李斗領(法学部准教授)、金子充(社会福祉学部准教授)、片柳勉(地球環境科学部教授)、坂上豪洋(政策広報課)

■平成23年度FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)
「大学教員の職能開発とFD」

開催日:A日程・平成23年8月8日(月)～9日(火)

B日程・平成23年8月10日(水)～11日(木)

会場:グランドホテル浜松(静岡県浜松市)

参加者:A日程・ホーマン由佳(経済学部准教授)、高橋俊一(経営学部講師)、柴田房雄(社会福祉学部准教授)、重田祥範(地球環境科学部助教)、有賀敦紀(心理学部講師)

B日程・武井順介(文学部特任講師)、岩切大地(法学部講師)

2 社団法人私立大学情報教育協会

■平成23年度教育改革FD/ICT理事長・学長等会議
「大学の教育情報公表の戦略的活用を考える」

開催日:平成23年8月3日(水)

会場:法政大学 市谷キャンパス薩埵ホール(東京都千代田区)

参加者:今井賢(副学長・経済学部教授)、原慎定(仏教学部部長・教授)、山口道昭(法学部部長・教授)

RISSHO UNIVERSITY
FD NEWS LETTER vol.5

平成23年9月30日発行
編集発行:立正大学学長室政策広報課
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL:03-3492-5250 FAX:03-5487-3340
URL:http://www.ris.ac.jp/

ポートフォリオ作成にチャレンジ!

FD担当副学長 吉岡 茂

最近わが国の大学で急速に普及し始めたものに、ポートフォリオ(portfolio)があります。代表的なものは、教員がより良い授業を行うために作成するティーチングポートフォリオと学生が自発的に学習成果を上げるために作成するラーニング(学習)ポートフォリオです。ポートフォリオは「書類一式、書類入れ」といった意味で、金融分野では投資対象となる金融商品の組み合わせを表す用語として使われてきました。

洋の東西を問わず大学教育の現場は、学生は授業を受けるだけ、教員は講義をすることだけに終始し、そこには「振り返って、改善してゆく」といった建設的な姿勢が欠如しがちでした。こうした反省から、1989年にカナダの大学教員協会がティーチングポートフォリオの概念を誕生し、90年代に米国の大学で普及・拡大したわけですね。わが国では、2008年の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」で、「学生が自らの学習成果の達成状況について整理・点検し、これを大学が活用して多面的に評価する仕組み(学習ポートフォリオ)の導入と活用の検討を行うべきである」と積極的な導入が提言されました。

ポートフォリオは、教育や学習、授業外活動に関する資料・結果及び自身による振り返り(省察)のほか、第三者との検討結果などから構成されます。ポートフォリオは、教員や学生の個人レベルの自己点検評価活動であり、この二つを上手く組み合わせることで、効果的な授業改善も可能になります。それぞれのポートフォリオの具体的な形式・内容は、千差万別ですが、基本的には次のようなものです。

ティーチングポートフォリオ

ティーチングポートフォリオは、教員が担当した授業に関する一連の情報を簡潔に整理した書類です。一般的にはある授業科目に関する一連の資料であるシラバス、テキスト、補助資料、試験・レポートの内容と成績、出席率及び授業改善アンケート結果といった事実・結果のほかに、授業や試験に関する問題点や改善点について省察した資料から構成されています。

私たち教員は、シラバスで学生の到達目標を定めて授業設計を行い、実際に授業を展開し、その到達度合を試験やレポートで測定します。また受講生から授業を改善するためのアンケートをとっています。授業の雰囲気やアンケート結果、出席率、成

績等を省察することで、授業の問題点、改善すべき点を洗い出し、次期のシラバス修正に反映することで、不断の授業改善(PDCAサイクル)につなげていくことができます。

学習ポートフォリオ

学生自身が学習目的を明確にし、学習した内容を省察し、次のステップ・アップにつなげるために作成する学習実践記録です。シラバス、学習資料、レポート、試験内容・成績などの資料のほか、学習過程を振り返った記録を整理したものです。学生個々人の自己点検評価です。この学習ポートフォリオは入学時から卒業時まで学生が受講した授業や課外活動に関する一連の情報を整理した資料が基本ですが、卒業後までを視野に入れたものもあります。

学生はシラバスに基づいて、毎回の学習到達度をその都度認識・把握し、問題点を自覚することで長期的な学習成果の達成につなげることができます。毎回、授業の後に振り返り、「理解できた点は何か」「理解できなかった点は何か」「反省点・改善点」といった内容を記録として残し、それを教員に見せ、コメントをもらうようなことも可能です。

具体的な作成例としては、個々の授業科目について「学習ポートフォリオB」を作成し、期末に受講した授業や課外活動の全体について総合的に振り返り、入学時から卒業時までを網羅する「学習ポートフォリオA」を作成するようなことが考えられます。

学級	学年	科目	担当	履修	成績
1	1	1	1	1	1
学級	学年	科目	担当	履修	成績
1	1	1	1	1	1
学級	学年	科目	担当	履修	成績
1	1	1	1	1	1

表2 学習ポートフォリオB

立正大学FD活動報告(平成23年度~)

1.第2回FD研修会

開催日:平成23年6月13日(月) 16:10~17:40
 場所:立正大学 大崎キャンパス 11号館8階 第6会議室
 熊谷キャンパス 1号館第1会議室
 (遠隔教育システムによる両キャンパス同時開催)
 テーマ:「学修の基礎I」取組報告
 第1部:高見茂雄 立正大学経営学部経営学科教授
 浦野寛子 立正大学経営学部経営学科専任講師
 第2部:矢澤圭介 立正大学社会福祉学部人間福祉学科教授

第1部

高見教授は、経営学部のFD活動や「学修の基礎I」の取組方法を紹介。FD活動の法令・社会的要請の説明から、能動的な意味付けなど、紹介した。

浦野講師は、ご自身が取り組んでいる「魅力ある授業に向けての授業方法」などについて講演した。近年の授業形態に関しては、教員による「一方向型」の授業から、学生の参加と協働を促すための、「双方向型」、「共創型」授業の導入と展開について、その意義と課題を交え紹介。また、「わかりやすく、理解され、記憶される授業」の取り組みとしては、効果的な板書の仕方やパワーポイントの使い方、予習・復習の導入法、など、「学生に親近感を持たせる授業方法」としては、学生の名前を呼ぶ、学生と視線を合わせた質疑応答など、「エキサイティングな授業展開」の取り組みとしては、研究分野の最新の進展について論じる、自分自身の見解とは異なる見解について論じるなどを自らの取り組み事例を交え紹介した。

浦野講師の授業展開例

双方向型、共創型授業の導入

教師が学生に一方向的に話す「一方向型授業」から、教師と学生、学生同士が交流する「双方向型授業」へ、さらに教師と学生、学生同士が協働的に、ともに価値を創りあげていく「共創型授業」へ

授業形態を進展させていく

※教師と学生、学生間の相互作用の関係

一方向 → 双方向 → 共創

目指すべき最終形

第2部

矢澤教授は、人間福祉学科における「学修の基礎I」の取組方法について紹介し、学生の同授業から得られたことについてのコメントも紹介した。

※第2回FD研修会は、大崎・熊谷両キャンパス双方向から講師が講演し、両キャンパスから活発に質疑応答が行われ、有意義な研修会になった。

アンケート結果からは、3名の講演に出席者の7割以上が「興味深い」と感じる研修となった。また、「現場の先生のFDの実践を紹介する研修は良い」「学部学科を越えた研修会は必要」といった意見の一方で「教員の参加が少ない」などの意見もあった。

矢澤教授の講演内容は次の通りである。

人間福祉学科での授業「学修の基礎I」

社会福祉学部人間福祉学科 教授 矢澤圭介

導入教育には、「こんな能力が不足している。だからこれを身につけよ」と高みからの指導のイメージがある。そうした行き方をとらない授業を考えたい。学生の身により添いつつ、勇気づける授業をする。それが基本的考え方である。

「祝入学」として、昨年度の(今年なし)入学式のVTRを見せた。大学はコミュニティで、「新参者」の1年生には捉えどころがないのは当たり前である。次いで「初心の確認」として、現場で活躍する先輩男性保育士の特別講演、彼の年長児への本の読み聞かせのVTRも見せた。「五月病に罹らない」として、ストレス理論から「認知的対処(自己教示)の大切さ」を話し、集団討議。「時間管理をしっかりとしよう」と、3年生2名に1週間の時間の使い方を図示し、「時間の使い方の成長プロセスとコツ」を話してもらい質疑応答した。

自分の所属する大学に誇りをもつことは大切である。「建学の精神を考える」として、4時間を使った。まず、「釈迦の生涯と思想」を担当者が素人として勉強しつつ、その学びの喜びを伝える趣旨で話した。次いで「宮沢賢治の生涯と思想」について、小乗から大乘への転換、「永遠の生命」、「修羅」、「菩薩」の思想と農科学者としての実践を、彼の作品を鑑賞しつつ話した。そして、「スタート」により、日蓮聖人から石橋湛山への歴史を辿り、「石橋湛山の思想と実践」を、NHKの「その時歴史は動いた」のDVDを見て、ともに考えた。

試験が近づき、講義も体験して行き詰まり感のあるところで、スタディ・スキルについて4時間講義した。「ノートをとることは、大学での学びの1つのエッセンス」、「メディアリテラシーを身につけ、確かな情報をきちんと調べるノウハウ」、「レポートをまとめることは感想文とは違う、先人の考えの検討・吟味に基づく意見の表明」といったきわめて基礎的なことを、具体的に実習を含めつつ授業した。

昨年度の独自の授業評価では、「これからの大学生活の参考になったか」に対し、「ある程度参考になった」以上が9割であった。学生は「参考になった」と見たようである。

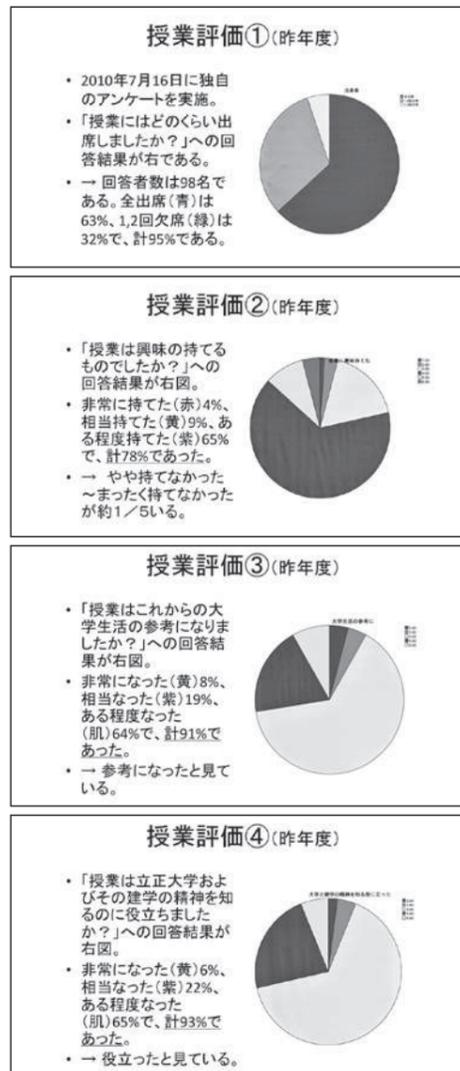
学修の基礎Iから得られたこと(自由記述)

※学生アンケートから抜粋

- 生活において大事なことを学べた。
- これからの大学生活の過ごし方や将来のことについて参考になった。
- レポートの書き方がすごく参考になりました。実際に保育士をやっている方のお話が聞けてよかったです。
- レポートの書き方はとても参考になりました。また、立正大学についても色々知ることができたので、これからはもっと充実した大学生活を送りたいと思います。
- 学校の歴史や石橋湛山について学ぶことができた。
- 学部の先輩方の話や、ビデオなどをみて、これまでの自分にはない考え方に触れ、今後に活かしたい。
- 建学の精神についても、大学についても、よく分からない状態だったので、勉強になりました。
- 建学の精神の理解を深めることができた。
- 現役の保育士の方や警察の方が来てくださり、現場のこと犯罪の被害者になった子どもにどう接したらよいか聞けて本当によかったです。
- 今まで分からなかった建学の精神が少し分かるようになりました。
- 今後の大学生活について良く分かった。
- 授業で失敗して落ち込んでいた時に、この授業で「自分に自信を持つ」という内容をやって、なんとか自分に自信を持ってやっています。
- 図書館は積極的に利用するほうが良いことが分かった。
- 先輩の話が聞けたのが良かった。保育の先輩の実際の現場とか。

- 卒業生が来て、保育士としての生活を話してくれたのが、役に立った。
- 卒業生の話は、すごく興味があって、保育士にとって大切なことが分かりました。
- 大学の歴史について、大学の生活、授業の受け方など。
- 大学をフルに活用し、自分のためになるように、自分から積極的に行動する。
- 大学生としてどのように過ごすか考えることができた。自分から動くことが大切だということを知ることができた。
- 大学生活はとても大事だと思った。頑張りたい。
- 大学生活をより有意義に過ごすための術を覚えてもらうことができた。また、色々な人が来て、余暇の過ごし方を学んだり、宮沢賢治についても知ることができました。
- 大学生活を有意義に過ごす方法が分かった。
- 立正大学の建学の精神について、学ぶことができたので良かったです。また、先輩の話が良かったです。
- 立正大学の建学の精神の意味が分かった。
- 立正大学の考える人生観を知ることができた。その内容を自分のプラスにしたい。
- 立正大学の歴史について深く知ることができました。また、先輩のお話を聞いて、これからの実習に役立てようと思いました。

矢澤教授の授業展開例



2.経済学部FD委員会

開催日:平成23年7月19日(火) 17:00~17:40
 場所:研修会/大崎キャンパス 1号館2階 第2会議室

研究科委員会終了後に経済学部のFD委員会が開催された。自己点検・評価委員である青木教授が「平成22年度授業改善アンケートの経済学部の結果概要について報告した。内容的には、他学部との比較、学部としてのコメントバック、大学全体の分析について、説明がなされた。これらを受けて、出席メンバーとの間で、重回帰分析の妥当性、クリッカーの効用についての授業評価アンケートを利用した調査の必要性など、さまざまな質疑応答があった。その後、小畑教授が参加した、私立大学連盟主催のFD推進ワークショップについて報告がなされ、活発な議論が行われた。



経済学部のFD委員会

3.心理学部FD研究会報告

開催日:平成23年6月15日(水) 15:00~16:30
 場所:研修会/大崎キャンパス 1号館2階 第2会議室

心理学部が学部学科内のFD活動を活性化し、充実させることに基づき、今年度の具体的な取組みとして、2学科制の効果的な入試戦略・広報活動を行うこと、語学教育の充実を図ることを進めるための一貫として、開催した。初年次教育についてや、「平成22年度自己点検・評価アンケート」について、活発な意見交換が行われた。



心理学部のFD研究会